

香南の海

目の前に広がる広大な海。
 とても身近な存在であり、
 私たちの生活にも密接に関わっています。
 しかし、あまり知られていない「海の中のこと」。
 波打ち際から、わずか数メートルの
 海底に広がるサンゴ礁から
 『香南の海』を見てみましょう。

サンゴの海へ

大手の浜のサンゴ

夜須町大手の浜では波打ち際からわずか数メートル沖合に、テーブルや枝などの形をした石とも植物ともいえないような生物が海底にくっついていきます。それらは専門用語で「造礁性イシサンゴ」(以下サンゴ)と呼ばれ、イソギンチャクやクラゲの仲間に分類される「動物」です。

「サンゴ」といえばオーストラリアなどの熱帯の海で見られるピンク色や黄色をしたサンゴを思い浮かべますが、ここでは茶色や褐色のものが多く見られます。色調はちよつと地

味ですが、60種を超えるサンゴの生息が確認されている県内屈指のサンゴの生息地となっています。

先人からの資料

大手の浜のサンゴは昔から知られていて、約80年前には東北大学の研究者によって調査をされています。さらに、平成5年には、高知県により細かい調査が行われ、国内でも長期にわたってサンゴの生息資料が残る貴重な場所となっています。

地域と共に守る

平成22年からは「黒潮生物研究所」の指導のもと、地元「YASU海」の「YASU海の駅クラブ」が、年に2回サンゴの健康診断を

行っています。診断は、日本各地で行われている「スポットチェック」と呼ばれる方法でサンゴを調べていきます。これは50メートル四方の一定の海域をシュノーケリングで観察し、1地点15分かけてサンゴがどのくらい生息しているか、サンゴに問題はないかなど、13項目を目視で調査。手軽で少し訓練すれば誰でも参加することができます。

増えるサンゴ

これまで合計6回のスポットチェックが行われ、水温が上昇してサンゴが死んでしまう「白化」や、オニヒトデによる被害が確認されました。減少が心配されていましたが、大手の浜のサンゴはだいたい健

全な状態が維持されています。

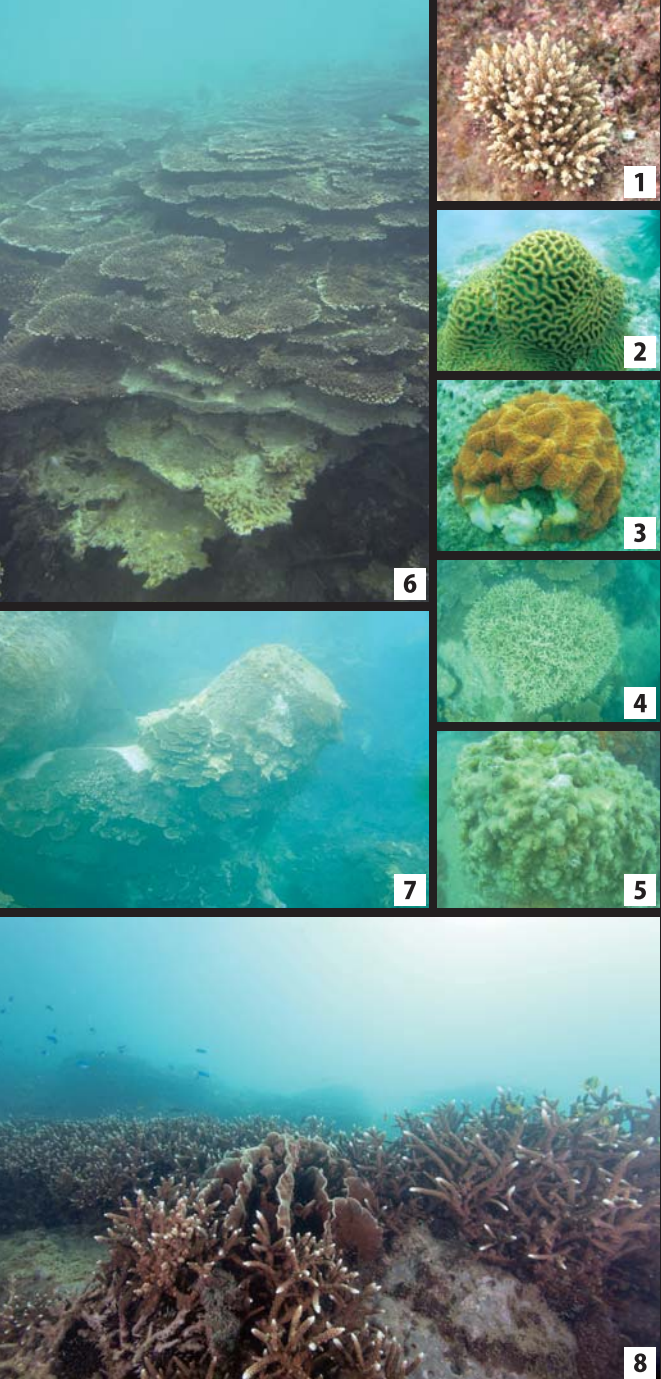
世界的には海洋温暖化やオニヒトデによる被害などが原因でサンゴが減少傾向になったり、ひどいところでは多くのサンゴが死滅したりしていますが、大手の浜のサンゴは今も増加しているのです。

募集

YASU海の駅クラブでは11月に黒潮生物研究所とスポットチェックを行います。参加を希望される方はお問い合わせください。

☎ 57-1855

【左】井土晴喜
 【右】横山恵理子



香南の海に生息するサンゴたち

- 1 スゲミドリイシ
- 2 ウネカメ/コキクメイシ
- 3 ハナガタサンゴ
- 4 ハート型のエンタクミドリイシ
- 5 コバハマサンゴ
- 6 クラハダミドリイシの群落
- 7 波消ブロックに定着したクラハダミドリイシ
- 8 枝状のサンゴは近年増えてきたスギノキミドリイシ。真ん中の板状のサンゴはシコロサンゴ